**古銭**

二の丸御殿跡からは200枚を超える古銭が出土した。その中には中国貨幣が17種（中国貨幣33枚）、朝鮮半島の貨幣が1種含まれていた。

考古学者たちは、松本で鋳造された銭貨の発見を期待していた。1636年、幕府は「寛永」という新しい銅銭を導入し、これが徳川時代（1603-1867）の標準通貨となった。この銅銭は、松本を含む全国十数ヵ所で鋳造され、1637年には松本城で一回の鋳造が行われた。

残念ながら、二の丸御殿からは松本製の銅銭は出土していない。出土した和銭のほとんどは、1668年以降に流通した新寛永と呼ばれる寛永の改鋳銭である。

また、タバコの煙管の金属部分や、鋳造の際に出る枝状の金属部分を利用した偽硬貨も発見された。